

ネコのマタタビ反応は『蚊よけ成分』を体に塗るため！

信州口腔外科インプラントセンター 北村豊

マタタビは、落葉性の蔓

性の木であり、北信地方なら、山沿いの湿り気のある林縁にはよく見かける植物である。蔓性で6〜7月の花期になると葉の一部が、ハンゲショウのように白くなるため、谷筋や急斜面の地形でも、「私はここにいますよ!」と自分の存在をアピールしているように目立つ存在の植物である。花弁は5枚で白くて一見やや大型の梅の花にも似ているので「夏梅」ともよばれるそうだ。なるほど…。

マタタビほどの頻度では



マタタビ 葉



マタタビ 花

ないが、この付近のやや高度が高い場所では、マタタビの近縁種の葉の白い部分がピンク色があったミヤママタタビが生えているが、どちらも白くて一見梅に似た、やや控えめに下向きの花を咲かせる。

しかし、今日の本題である「ネコにマタタビ」では、ミヤママタタビは、ネコにとって魅力的ではなくて、役不足だそうである。

中野市でもネコを飼っておられる愛猫家の方々も多

いことでしょうか、半年ほど遡った今年の1月21日の『ついにネコのマタタビ反応の謎を解明』というピッグニュースをテレビニュースなどで耳にされた皆様も多いのではないだろうか？

発表者は、上野山怜子氏(岩手大学)を筆頭とする名古屋大学、リヴァプー

ル大学の研究グループで、非常に質の高い国際誌の『Science Advance』のオンライン版に論文が掲載されて世界中に衝撃を与えた。

その論文の結論は、ネコのマタタビ反応は蚊に虫除け効果をもつマタタビの成分・ネペタラクトールを体内に擦りつけるための行動である、ということであった。

複雑さや分析の困難さもあって謎のままであった。しかし今回の研究のように異分野の連携によって初めてなされた研究ともいえ、専門バカだけでは私達の身近な生活圏でも同じことが言えるだろう。

また、このマタタビ反応によってネコの体毛に付着した極微量のネペタラクトール、アルコール綿で拭きとった綿には、他のネコがマタタビ反応を示すのに対して、同じ検体を用いて最新の気体中の微量成分を検知・測定できるガスクロマトグラフィーでは検知し得なかったという。すなわちネコの鼻はそれを検知できるほど超高度感度であることが一連の実験でも判明している。

これを聞いたネコは、きっと鼻高々だろう。しかし、ネコは人のように天狗になつたりしないので、そこは謙虚なところであろうか…。

今後は、マタタビに含まれるネペタラクトンが蚊の忌避・殺虫活性を示すことから、人にとっても伝染病の天敵である蚊の新たな忌避剤の開発への応用が期待される。



虫糞(ちゅうえい)